

野田の良い所と負の遺産も学んで!

●福田村事件とコウノトリとの出会い!

昨日の「こうのとりの里・野田を訪ねる旅」の後半を綴って参りましょう。今回の企画で、根本様からの「明治に造られた文化遺産の利根運河、自然共生の江川地区といった野田の良い所だけでなく、負の遺産もあることを知って欲しい」との申し出でお願いした福田村事件追悼慰霊碑保存会の市川様のお話です。

◇ ◇

◆福田村事件について [朝日新聞香川版]

1923年9月1日に起きた関東大震災。朝鮮人による放火や略奪を伝えるデマが乱れ飛び、恐怖にかられた自警団らが多くの虐殺事件を引き起こした。中央防災会議の報告書は、震災の死者10万5千人のうち、1～数%を殺害によるものと推計する。

犠牲者には日本人も含まれていた。5日後の6日、千葉県北部の福田村(現野田市)で、薬売りの一行15人のうち、幼児や妊婦を含む9人が殺され、遺体は利根川に投げ込まれた。香川県三豊郡(現三豊市)の被差別部落からの行商団だった。[中略]。

千葉でも2000年、真相解明と追悼慰霊碑の建立をめざす市民グループが発足した。事務局長を務めた市川正廣(74)＝野田市＝は当時、市の職員。30代で同和対策課に配属され、部署が変わっても人権問題に関わり、休日すべてを活動につぎ込んだ。地域の人に対し、「断罪や賠償が目的ではない。被害者を慰霊し、差別が人の命まで奪う厳しさを後世に伝えたい」と説得。事件から80年の03年9月6日、現場近くの霊園での追悼慰霊碑の除幕式にこぎ着けた。香川からも複数の遺族が参列。碑には、



〔事件があった利根川の渡し場付近に立つ市川正廣＝千葉県野田市〕

おなかにいた胎児を含めた10人の戒名が刻まれた。市川はこれまで3千人を案内した。「東北でも熊本でも震災後にSNSでデマが流れた。ヘイトスピーチも吹き荒れている。福田村事件は今に生きている。過ちを繰り返さないため、知ってもらおうのが私の使命です」【写真と文は2018年4月25日の「差別を越えてく」より抜粋】

◇ ◇ こうした悲しい事実を多くの人たちに伝え、さらに現代も残っているさまざまな差別意識や偏見などを解消しようと努められている市川様のご努力に頭が下がります。

◆コウノトリを目の当たりにして!

野田市では、未来を担う子どもたちに多くの生き物がいる自然環境を残し、生物多様性の保全・回復の取り組みが後世に引き継がれるようにとの願いから、生物多様性のシンボルとしてコウノトリの舞う里を目指すこととしたそうです。そして、江川地区に飼育・観察が可能な施設を建設し、平成24年12月に多摩動物公園から2羽のコウノトリを譲り受けて飼育を行っています。

それが平成17年生まれのコウくん(オス、13歳)と、7年生まれのコウちゃん(メス、23歳)のつがいです。二匹の間には、6年経って雛が誕生しており、今年3羽の雛が育ち、間もなく巣立ちの時期を迎えるそうです。

ボランティアガイドさんの説明で、コウノトリの大きさは身長120cm程度、羽を広げると2m位になり、畳1枚が空を飛んでいるとのこと、さらに生涯を一夫一妻で通すことなどさまざまなことを学ばせてもらいました。見ていて飽きないですね。



〔餌を与える親鳥(右)と雛3羽〕



〔雛鳥の羽ばたき、間もなく巣立ち〕



〔観察スペースでケージの中を見る〕



〔放鳥したコウノトリの位置情報〕

野田市のホームページには放鳥した5羽の位置情報が掲載されています。高知県、茨城県、福島県

ではペアリングが敵ったようで、栃木県にいる「ひかる(雄)」が時々飛来するのでペアで戻ってくることを期待しているそうです。